

まちづくりディスカッション in くみやま (住民討議会) 実施報告書



実施日:平成 27 年 1 月 31 日(土)
午前 10 時~午後 4 時

実施場所:久御山町役場 5階
コンベンションホール

久御山町総務課

1 まちづくりディスカッション in くみやま(住民討議会)の概要

実施日時：平成 27 年 1 月 31 日（土）

午前 10 時から午後 4 時

場 所：久御山町役場 5 階 コンベンションホール

討議テーマ：「久御山町を安心・安全なまちにするために」

テーマ① 身のまわりで困っていること、心配なこと

テーマ② 身のまわりで取り組んでいること

テーマ③ 住民と行政との協働で出来る備えとは

参加人数：19 名（男性 9 名、女性 10 名）【参加予定者 20 名】

1 班：田口千代子、中洋嗣、安藤芳子、亀嶋きく、高岸大輔

2 班：山田真由美、中村登志行、上條節子、平山光一郎

3 班：黒川紀夫、中嶋貞子、久保井純子、田井勝実、水野温夫

4 班：松尾由希絵、奥村勝美、中澤孝幸、清本郁子、児玉吉弘

地域構成：坊之池 1 名、東一口 1 名、野村 2 名、佐山 5 名、林 3 名、
市田 1 名、田井 1 名、下津屋 1 名、栄 4 名

年齢構成：20 歳代 1 名（男 0・女 1）、40 歳代 4 名（3・1）、
60 歳代 8 名（3・5）、70 歳代 6 名（3・3）

参加者選出方法：住民基本台帳より 18 歳以上の男女 1,000 名を抽出し、
参加依頼書を送付（参加希望者 48 名）。

参加希望者の中から抽選により 20 名の参加者を選出。

討議進行方法：

- ① 年代・性別のバランスを考慮して 4～5 名の 4 班に分ける。
班毎にコーディネータ（久御山町職員）が入る。
- ② 町職員が情報提供者になり、町の概要や議題等のテーマに関する説明を受ける。
- ③ 班毎に進行役、記録係、発表者を決める。
- ④ 班毎に討議用紙と付箋を使い、意見の提案・集約を行う。（50 分）
- ⑤ 午前中にテーマ①の討議結果を発表し、テーマ②③の討議後全体の討議テーマ「久御山町を安心・安全なまちにするために」の結論を発表。

当日進行：

- 10:00 開会
- 10:20 議題説明と情報提供
- 10:35 自己紹介と進行役、記録係、発表者などの協議
- 10:50 テーマ①に対する討論
- 11:40 テーマ①の発表（各班 5分程度）
- 12:00 昼食・休憩
- 13:00 テーマ②に対する討論
- 13:50 休憩
- 14:00 テーマ③に対する討論
- 14:50 休憩
- 15:00 発表内容をまとめる討論
- 15:20 発表（各班 約5～10分）
- 16:00 閉会

2 討議結果

1 班

◎「身のまわりで困っていること、心配なこと」の洗い出し

- ・産業振興・・・新しいものや地域の産業をさらにアピール
- ・医師常駐の高齢者向け施設が少ない
- ・老人ホームが少ない、入れるか心配
- ・公立病院が無い
- ・産婦人科が無い
- ・子どもが少ない
- ・川の増水
- ・地震
- ・ごみの置き場所
- ・ごみ捨てのモラル
- ・路面鉄道（L T R）あったら便利
- ・上下水道管の保守点検
- ・介護保険の補助不十分
- ・空き家対策
- ・地価が高い



上記のような子育てや老後、交通など様々な安心安全に関わる意見が出ました。

その施策を実施するためには**財源が必要**という観点から、次のような提言をします。





財源を生み出すため、一般企業に働きかけファンドを創設。利益を出資者に還元し、それを財源として、

▽高速道路の下やクロスピア周辺の空いている土地を活用し宿泊施設等を建設

▽のってこバスのルートを見直すなどの交通を発展させて人が集まる地域を作る

▽若者の流出を防ぐため、若い人が嫌う住所表記「久世郡」をとる

などの町おこしをすることで人を集めます。

また、人が集まるまちをきれいにするために次のような取組みを提言します。

▽ごみの分別について住民に丁寧に説明することで、積極的に取り組めるように促す

▽ごみが道などに落ちているようなことがないよう環境整備を図る

▽行政が啓発をする

▽コミュニティの活動に参加し孤立を防ぐ



2 班

◎「身のまわりで困っていること、心配なこと」の洗い出し

- ・地域とのつながりとつながり方
- ・自治会の高齢化
- ・高齢化と町の財政的な取組み
- ・体育館などの箱ものの維持費
- ・役場の中でのつながり
- ・孤独死
- ・役場に行くのが遠くて不便
- ・のってこバスをもう少し便利に
- ・子育て、教育
- ・農業を続けるために



上記の意見が出た結果、安心・安全なまちにするために、住民の声を聞き町に届ける**ボランティアグループの連絡会を組織**することを提言します。





生命や暮らし、健康をテーマに、本当に安心安全なまちづくりは何なのかという視点で討論した結果、住民の生の声を町に届けること、町が住民の生の声を受け止めて解決することが全ての問題に対して、安心・安全につながるのではないかと結論になりました。職員が直

接出向いて住民の声を集めることは難しいため、声を町に届けるボランティアを組織することで声を町に届けようというものです。

城陽市では「ボランティアサークル連絡会」が組織されています。連絡会主催の「ボランティアフェスティバル」が開催されており、そこでは住民の方々に活動内容を知って頂き、興味を持ってもらい、入って頂くという貴重な機会があります。久御山町でも「ボランティアグループの連絡会」を組織し「フェスティバル」などを開催してはどうでしょうか。



また、急に認知症になった時など何かあった時にどこに相談したら良いか分かるように、情報発信を丁寧にしておいてもらいたい、といった意見や、生の声を聞く場の継続的な実施、地域に行つて生の声を聞く機会を作ること、自治会との懇談会や町長と話す会を開催してもらいたいです。

他にも長野県では有線放送で町内全域に伝える方法が整備されています。久御山町でも有線放送が整備できれば良いが、財政的に難しいと思うので、広報車で町内をまわるなどの有線放送に代わる方法を考えてもらえればと思います。



3 班

◎「身のまわりで困っていること、心配なこと」の洗い出し

- ・自治会の組織、入会案内が無い
- ・周辺の家族のことが分からない
- ・通学路の安全
- ・バス停の照明が無い
- ・地震、洪水、水害
- ・古川、宇治川、木津川のどの川が危ないか分からない
- ・障害者雇用
- ・農業のあり方
- ・先生のレベルアップ、モンスターペアレンツ
- ・町民プールの利用予約が出来ない



上記のような自治会活動や防災、防犯、交通などに関する意見があり、**自治会で高齢者シートを作成する**ことを提言します。





まず、自治会活動を少なくとも実現しないといけないと思います。まなび塾などの世代間交流や地域の掃除やお墓の掃除、防犯パトロールなどで近所の方とつながりが出来ているところもありますが、自治会単位の高齢者連絡シートの作成を図り、見守り活動に積極的に参加する啓発活動が必要ではないか。新聞配達などと連携してシートを利用出来れば、高

齢者や障害者の見守り活動として有効で、そのためには住民に自治会に加入してもらうことが大事なので、条例で自治会加入を義務化してはどうかと思います。

防災では、防災グッズの斡旋や形骸化し目的を見失っている防災訓練について、実際の避難経路や方法にどん



な問題があるのかを課題にあげた訓練が必要ではないかとの結論が出ま

した。また、地震よりも洪水が心配されるとの意見があるため、避難時に事務所を開放してもらえる企業を積極的に募集することで、より安心安全なまちにつながるのではとの意見がありました。

最後に交通では、のってこバスをオンデマンド式に見直すことでコストが下がるのではないかとの意見や、夜間照明が無くて暗いバス停にソーラーパネルと照明を設置することで、防犯につながるとの意見が出ました。

このような自治会などに参加する意欲などは教育が一番重要。教育についての限界を設けることなく質を向上させる方法を考えていくことが大事です。



4 班

◎「身のまわりで困っていること、心配なこと」の洗い出し

- ・実際に災害が起こったときの支援受け入れ態勢
- ・古い住宅の地震の時の耐久性が不安
- ・携帯電話などが扱えない人のための連絡体制
- ・掲示板の位置
- ・自治会活動に無関心な人が多い
- ・交通渋滞
- ・自動車や自転車の道路整備
- ・周辺の害虫について
- ・早朝小中学校の交差点の安全
- ・マイクロバスの使い方
- ・空き巣、盗難



上記のような意見があり現行のハザードマップの見直しや交流行事の推進について提言します。





ハザードマップには避難経路や危険個所の記載がありますが、実際に避難する時に有効なのかが疑問です。耐震構造になっていない危険な建物や深い側溝などの情報を見直すことで、実際に避難する時に非常に参考になります。昔から久御山町に住んでいる方は水害に対して意識が高いため、その方々の意見を新しく転入している方々に伝えることを考えていただきたい。現行のハザードマップのような紙面上の避難経路は参考にはならないので、地域ごとのハザードマップ作りをすべきです。

また、計画的な交流行事を開催できないでしょうか。若い人が参加したくなるような魅力あるイベントを定期的で開催し、人を集めて災害などの啓発活動をしては。例えば音楽会のようなもので、人を集めて交流することで情報交換ができるのではないのでしょうか。

他にも、防犯意識を高めるためにチラシを配布し啓発活動をしてはとの意見や、災害発生時の避難場所における支援受入体制の向上、防犯カメラの適材適所への設置などの意見がありました。



3 住民討議会参加者アンケート結果

1 参加された感想をお聞かせください

- | | |
|-------------|----|
| ① 良かった | 18 |
| ② どちらともいえない | 1 |
| ③ 良くなかった | 0 |

自由記入

- ・色々な視点でのお話が聞けました。
- ・行政次第かなと思う。
- ・最初は少しとまどったが、いろんな人達とお話を聞いてよかったと思います。
- ・意見を言う事ができた。
- ・交流がない方と交流ができて良かった。
- ・色々な意見を聞き、これからの生き方の参考にしたい。
- ・久御山町民として愛する町、住みよい町にしたいと考えている人として、参加させて頂けたと思います。

2 参加動機についてお聞かせください

- | | |
|----------------|----|
| ① テーマに関心があったから | 5 |
| ② 無作為抽出で選ばれたから | 13 |
| ③ 町に要望等があったため | 6 |
| ④ その他 | |

3 この住民討議会は、住民の声を行政に伝える手段として適していると思いますか

- | | |
|----------|----|
| ① 適している | 18 |
| ② わからない | 1 |
| ③ 適していない | 0 |

4 一日討議していただきましたが、時間はどのように感じましたか

- | | |
|---------------------|----|
| ① ちょうど良い | 13 |
| ② 長い | 4 |
| ③ 短い（開始時間を早めて時間を長く） | 2 |
| ④ 短い（2日に分けて時間を長く） | 0 |

自由記入

- ・当初は①、セミナーの要領が解ると、もう少し時間をかけたい。
- ・少し長いと思います。
- ・長いと思いましたが、実感としては丁度良かった。
- ・時間の割に早く過ぎた。

5 会場の雰囲気はどうでしたか

- | | |
|-------------|----|
| ① あまりよくない | 0 |
| ② よかった | 19 |
| ③ どちらともいえない | 0 |

自由記入

- ・清潔で落ち着いて討論できました。
- ・熱意のある方ばかりでした。

6 発言はできましたか

- | | |
|---------------|-------|
| ① できた | 16 |
| ② あまり発言できなかった | 2 |
| ③ その他 | 無回答 1 |

7 その他ご意見、ご感想があれば

- 個人的な意見は行政の方に届くのか不安です。本当に困っている事なので、是非熟慮のほど、お願いしたいと思う。(最後の発表以外の事柄)
- 少し参加者の年齢が偏っているように感じました。近隣の小中高からも一定の参加者を募る形式にしてもいいかと思います。
- クラシック音楽を年4回位、実施してほしい。けいはんなプラザ、宇治、京田辺等では、若手(大学生等、卒業生を含む)音楽家を招いて行っています。
- 1年に1回ではなく、何回も討議を行い、又、町内の公会所などにも職員も足を運び、声を直接聞いて下さい。住んでいる場所により、要望も違います。
- 本日の討議の結果の流れを知りたいので、再度この会議をお願いしたいと思います。
- 意見を一つでも町政に活かしてほしい。
- 今回のディスカッションの結果が少しでも生かされたらいいですね。
- これからも継続をしてほしい。年齢層(特に若い人)を考えてほしい。
- 参加しなければわからなかった色々な意見が聞けて良かったです。
- 有意義な時間でした。ありがとうございました。今後に期待しております。このような事に参加出来、良かったです。準備などに大変だったと思います。お疲れ様でした。
- 思うことを言葉にすることがむずかしいと思った。